

2023 年度 3 月 学校関係者 評価報告書

実施日：2024 年 3 月 21 日（木）

2024 年 3 月

北斗会看護専門学校

学校関係者評価委員会

2023年度 第8回 学校関係者評価委員会 報告書

1. 学校長代行副学校長

平素より本校の教育にご協力いただきましてありがとうございます。様々なご意見を参考にさせ頂きたいと思えます。学校長は体調不良のため、欠席させていただきます。また、今年度をもって、退任され4月1日より新たな学校長が就任の予定です。2003年4月より学校長に就任され、「国の宝となる看護師の育成する」として尽力され、講師として勤められていたところから本校の歴史の半分以上に携わってこられました。次年度にはまた、新たな体制で教職員一同頑張っていきたいと思えます。本日は様々なご意見をいただき、次年度に向けた体制作りを活かしていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

2. 委員及び参加者

学校事務長代理前学校事務長 井上 英二 副学校長 石川 美佐子、
教務主任 並川 好美 実習調整者 小林 愛 …計4名

教育に関する分野の有識者として看護教員の経験を有する

市山 喜代美 様

学校周辺の地域に精通する地域住民また地元企業関係者として

未来SS義塾 豊中市保護区保護司会 地域での育成活動を行われている

山本 和央 様

関連業界等関係者として学校周辺の病院施設および、卒業生の受け入れ実績を有する病院の管理者、教育に携わる

公益財団法人唐澤記念会 大阪脳神経外科病院 師長

村松 宏美 様

合計7名

3. ス本日のケジュールについてレジメに基づき説明

一本日の議題について—

- 2023年度 自己評価概要説明
- 2023年度 重点目標の評価概要説明
- 意見交換
- 説明についての質疑応答
- 課題についての討議

4. 資料に基づき自己評価の概要説明

【改善策】

1. 次年度は1年生、2年生ともに新カリキュラムで運営されることとなる。「思いやりと感性あふれる看護師を育成する」教育目的を達成できるよう教職員全体で取り組む。学生との関わりを中心とする学生担当教員のコミュニケーションを充実させ、役割体制の充実、教育力の向上を図る。
2. 2024年度重点目標は前年度に引き続き「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～」を挙げて取り組む。
3. 2023年度は中期目標5か年計画の5年目であった。「定員40名を満たした魅力ある学校づくり」の目標は達成したものの、准看護学校の閉校や2年課程の閉校は続き、全国的な学生充足率の低下が進んでいる中、教育の質の保障とともに、学生数を確保することは課題である。数値目標として、より積極的な働きかけが必要と考える。
 - 1) 受験者倍率1.25倍を目指す
 - ・補欠合格者、三次入学試験を設定し、入学希望者を確保する
 - ・オープンキャンパスの情報発信
 - 2) 学校訪問の拡充
 - ・法人と協力し学生及び将来病院職員となる奨学生のアナウンスの機会を増やす
 - ・入学生の出身校への訪問
 - ・学生の様子を伝える機会を増やす
4. キャリア教育の充実
 - 1) 希望者就職100%
 - 2) 大阪府内の就職率80%
 - 3) キャリアガイダンスの充実とキャリアデザインサポート（キャリアサポ）の充実

5. 重点目標の説明 ー資料に基づき重点目標と評価と課題の概要説明ー

2023年度 重点目標

**全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場
～看護専門職としての学生一人一人を大切にしたい教育～**

- ①授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。
- ②学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。
- ③基礎学力の向上に向けて支援する。
- ④教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高める指導力の向上

方針・目標 1. 授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。

<評価と課題>

1年生46回生は新カリキュラムとなり、新しい科目をはじめ、各科目の授業案を会議で検討、情報共有し、新たな取り組みも多かった。1年次終了時のアンケートでは「向上心を持って、学習に積極的に参加し、学びが深まった」については、「とてもあてはまる」35% 「あてはまる」55%の合わせ90%の学生が当てはまると回答している。また、「看護専門職としての意識はこの一年で高まったと感じる」に対しては同じく95%の学生が「とてもあてはまる」「あてはまる」と感じており、1年間の学習の成果を感じている。しかし、「1年の学習全般に授業はおおむね理解できた」に対しては1/4の25%は「あまりあてはまらない」としており、教育方法については学生のレディネスに応じて、工夫していくことが必要と思われる。今後は学生の学習状況を評価し、学習効果を高められるよう取り組む。次年度は教員の領域担当、授業担当なども変更があり、学習内容の共有、充実に向けて努力したい。

授業研究については時間の確保が難しい。しかし、可能な限り行えるよう調整が必要である。次年度の実習についても検討を進め、学習効果を高めたい。デジタルテキスト導入にむけて業者と協働し、準備を進めた。学生の混乱がないように次年度も他機関と協働しながら調整をすすめたい。

方針・目標 2. 学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り、思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。

<評価と課題>

2023年度はできる限り学校行事を従来に近づける目標をあげ、4年ぶりとなる「観劇」、「学校祭」の対面参加となった。

今後も、看護実践力の向上、社会人基礎力の向上や思いやりが育つことをねらい、学生間の交流や学びの場を持てるよう計画していきたい。

方針・目標 3. 基礎学力の向上に向けて支援する。

<評価と課題>

今年度の国家試験の難しさを感じた学生は多く、不安を抱く学生が多かった。今後、難化する国家試験に向けた支援には主体的な学習と共にきめ細やかなメンタル面の支援も必要と思われる。学生が意味をもって学べるのが大切なので、学び合いや主体的に取り組めるよう支援したい。

方針・目標 4. 教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高める

<評価と課題>

「思いやりと感性あふれる看護師を育成する」ねらいをもって教育にあたる教員の育成を継続したい。今年度の重点目標にあげる『全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～』につながる取り組みを教員一人一人が実践していけるよう協力し合い定着することをねらいたい。そのため、次年度も重点目標として継続し、取り組む。

次年度からは、クラス別の「担任制」から、コロナ前に行われていた全ての学生を複数の教員で関わり育てる、「学生担当制」とする。これにより、学生にとっては相談の窓口が増える。教員にとっても多角的に学生を理解することができ、教育に対する意見交換の機会が増えることでそれぞれの教員の教育力の向上にもつながる。

次年度の重点目標としては、

「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場

～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～」

を重点目標に教育内容の充実を図り、教職員が一丸となって発展させていきたい。

そのために①授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。

②学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。

③基礎学力の向上に向けて支援する。

④教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高める

以上を方針・目標として継続して取り組みたい。

6. 意見交換

<山本>私は地域での活動も行っており、社会福祉協議会とのつながりもある。昨年の敬老の集いで学生がボランティア活動を行ってくれて大変良かった。ありがとうございました。

自己評価についてはあまり点数化して低い部分があったとしても、気にしなくてもよいと思う。自己評価を見たが、妥当な評価だと思います。不足だったとする「教育理念・目的・目標は学生に浸透しているか」の項目が3名不足と考えているとしているが、それは何故かの聞き取りはしていますか。そこからの対応が必要かわかることがある。

<石川>アンケートをとるのが2月、1月入職の新入職教員が2名おりましたので、教育理念・目的・目標が浸透するように教育に当たっていると判断しにくいと考え、今後の課題として、不足としたことがわかった。今後全ての教員が本校の教育理念・目的・目標を意識した教育活動に当たれるようにしていきたい。

<山本>学生担当制というのはどのような取り組みか。情報共有が大切だと言われていたが、重要だと感じている。どのくらいの頻度で情報共有するなど何かありますか。

<石川>次年度は5名の複数教員で全学生を見ていくという形をとります。新型コロナウイルスの感染拡大が起こる前はそうしていましたが、感染症が拡大してからは窓口を一つにして不安に対しても対応する、相談に乗ることをねらって一クラスに一人の教員また、副担任でサポートするような形をとっていた。次年度はもとにもどして、複数の教員で学生の教育に当たるようにします。相談の窓口が増えて、多角的に学生を把握しやすいメリットがあります。そのメリットを活かしたいと思います。

<山本>学生担当制はメリットが大きいでしょうね。そういった学校は多いのでしょうか。

<石川>担任制をとっているところが多いと思います。一部の学校でチューター制と呼ばれる体制をとっている学校もあり、今後増えてくるかもしれません。

<山本>そういった体制をとっているという事は(広報活動として)どんどん伝えていた方がよいと思う。いい取り組みだと思う。

<山本>学生同士の学び合いは非常に効果的。私の塾でも今度異学年の学習として、上級生から下級生へ教える場面を作る。教える方も学びになるので、効果的。

1年生のアンケートの中にグループワークは効果的でなかったというような結果がいくつかあったが、これは交流であったり学び合いであったりが不十分ということでしょうか。2年生になるとそういった意見は無くなっていますね。

<石川>グループワークのねらいは様々で、学習効果であったり、交流であったり、学習内容によってねらいが違うので、学生がその学習のねらいを理解していないということでしょう。十分にねらいを説明していくことは必要と感じる。しかし、このアンケートの1年生の時点ではこういったレディネスであり、それが実習であったり様々な体験をしていくことで学習のねらいやあり方がわかってくる、成長していくということでしょう。2年生になってからが楽しみです。

<山本>昨年度も国家試験が難しかったと言われ、100%の合格率でしたね。看護師国家試験は合格率が90%前後。社会福祉士は人数の少ない中で、合格率約30%では難しすぎないかと意見が出て、50%前後となった。それに比べると高いようだが、やはり、難しいのか。

<石川>看護師国家試験はどのような問題の傾向であっても毎年合格率を90%前後に置いている。昨年度はその前の年と比較して平均点、合否の基準が約15点下がった。今年度も昨年同様低いのではないかと思います。今年必修問題が難しく、試験会場では大学生が午前中の問題であきらめて帰っていた人がいたと聞いている。結果を待ちたいと思う。(2024年3月22日看護師国家試験全国合格率87.8%本校90%)

<村松>学生担当制は良いと思う。病院でもプライマリー制なのか、チームナーシングなのかどちらが良いのかとか悩むことがある。このような学生担当制をやっているということをしっかり発信していったらよいと思う。しっかり学生をサポートする体制をとっているという事を知ってもらうことが良いと思う。

教育環境としてはトイレを様式化して欲しいという声があるようで、年齢が高い人にとっては和式を必要とする人もいるし、トイレ一つでも年齢が違っても共通言語をどうしていくのかとか、難しいことがあるようですね。

図書の充実については解剖など基礎的なことは変わらないが、治療法などは日々変化している。補充が必要なものもあるかもしれない。一つの方法として卒業生から本をいただくという方法がある。箱などを置いて、在校生へ寄贈するというのも、先輩のお守りとして大事に使う、書き込んであることも大切なことなので、勉強になるという効果もあるかもしれません。

<石川>そうですね。今年も2年生から1年生へ使っていた本など使わなくなって寄贈したいものがあつたら箱に入れていただくという事をしました。学生は喜んでいました。

<市山>情報共有は本当に大切だと思います。授業の中でも子育ての仕方など学生から相談を受けることがある。気になるところや相談を受けたことなど先生方ともできるだけ共有していきたいと思います。

学生のアンケートの中で「外部の先生にもご意見を聞いて欲しい」（授業に対する大福帳）という意見があつたが、自分の授業の評価も学生の意見を取り入れて行っていきたい。そういった方法があれば、意見を聞いていけるようにして、授業に活かしていきたい。

45回生の学習会の「寺子屋」が進化していった。いろんな学習が壁に貼ってあり、目標値も提示してあつた。学生同士、また、1年生も刺激を受けるのではないかな。学生が能動的に学習して導きあつて、自発性は大事。46回生も能動的に取り組めるよい機会となるでしょう。

1年生は個人作業の中での（学習）アンケートの結果のように思う。今後の変化が楽しみです。

また、入学前より「社会人基礎力」について取り組まれているのは素晴らしいなと思った。ぜひ続けて欲しい。評価の中に教育することにはエネルギーがあると述べられていたが、本当にそうだと思う。ぜひできることは協力したいと思います。

本年度の入試は1.23倍という事でしたが、2年間という最短で看護師免許が取得できる、（2年課程全日制は）大阪府で2校だけというのはとてもニーズは高いと思う。45回生のアンケートでは「先生方に手厚くしてもらった」という意見が27名くらいか、大変多かつた。いろんな背景を持つ学生がいる中で、この多様性というなかにしっかりタイアップした結果だと思います。学生のモチベーションも向上している。PRしてください。

HPも学校生活の様子や、バーチャルオープンキャンパスの提示、卒業生の声、在校生の声など充実していました。大変見ごたえのあるものでした。

ぜひ、いろんな取り組みをされていることを広めてください。

<山本>学校の環境としてトイレを整えて欲しい要望があつたが、様式化に改修する予定はどうか。

<井上>病院での改修工事も徐々に進めている。病院で患者さんにアンケートをとったところ、和式トイレを多くの方が希望していたため、洋式への導入が遅くなった。

<石川>次年度からは学校でも合理的配慮が義務化されるため、環境についても整えていくことが求められるので、可能な限り法人の協力を得て整えていきたい。

<市山>指定校推薦をとるなどのシステムによって質の高い学生を確保するという方法などどうか。

<石川>今年度1校から指定校推薦のお話を受けて、(教務会や運営委員で)話し合いをしました。指定校推薦の評定を見ると、それ以上に高い学生が受験しているので、評定を下げるのは不都合となる。また、指定校推薦を受ける人数を数名に決めてしまうともっと受けたいと思っていた学生が受けづらくなるかもしれないので、あまり有用ではないという結果になりました。また、状況が変われば指定校推薦についても考える時期がくるかもしれません。

<井上>最近は大阪府以外からの受験生が増えている。准看護学校によって環境が違う。個々に教育を受けた環境が違う。本校は行事が多く、交流などが図れる特徴として知ってもらえるといいです。

7. 副学校長による総括

様々なお意見を頂きましてありがとうございます。講師の先生方のお力は大変大きなもので、今後とも協力をいただきたいと思います。また、病院施設、法人、学校関係者評価委員の方々とともに協力して取り組んでいきたいと思っています。

8. その他

今回で2期目の委員の方々が終了となります。次年度委員として山本様は引き続きご参加いただけるという事で、今後ともどうぞよろしく願いいたします。2年間ありがとうございました。